

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報 .....	2
(3) 連結業績予想に関する定性的情報 .....	3
2. 四半期連結財務諸表 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	8
(4) 継続企業の前提に関する注記 .....	9
(5) セグメント情報等 .....	9
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	10
(7) 重要な後発事象 .....	10
3. 補足情報 .....	11
(1) 主力製品売上高 .....	11
(2) 製品開発状況 .....	12
(3) 製品開発状況・補足資料 .....	13

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間（平成23年4月1日～9月30日）の当社グループを取り巻く環境は、医薬品業界においては後発品処方促進策等の医療費抑制のための諸施策が引き続き推進され、食品業界においては引き続き低価格志向の動きが激しく、それぞれ厳しい状況が続いております。

当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高は321億7千3百万円と対前年同期比5.8%の増収となりました。利益面では、営業利益は30億1千1百万円（対前年同期比35.0%増益）、経常利益は31億3千3百万円（対前年同期比29.4%増益）、四半期純利益は20億1千2百万円（対前年同期比38.8%増益）となりました。

医薬品事業では、前立腺肥大症治療剤「エビプロスタット」や非ステロイド性鎮痛・抗炎症剤「ハイペン」等の売上が減少しましたが、月経困難症治療剤「ルナベル」、肺動脈性肺高血圧症治療剤「アドシルカ」等の売上が伸長しました。また、平成23年3月に発売した骨髄異形成症候群治療剤「ビダーザ」の売上が大きく寄与しました。その結果、売上高は263億7千9百万円と対前年同期比6.1%の増収となりました。

機能食品事業では、加工食品業界、健康食品業界とも厳しい状況が続く中、健康食品素材は売上を大きく伸ばし、ニュートリション素材、品質安定保存剤も伸長、たん白製剤は堅調に推移しました。その結果、売上高は57億9千4百万円と対前年同期比4.8%の増収となりました。

### [研究開発の状況]

国内では、アルコール依存症患者の断酒補助剤「NS-11（一般名：アカンプロサートカルシウム）」について、第三相試験を終了し、申請に向けて準備中です。日本イーライリリー株式会社から導入した「LY450190（一般名：タダラフィル）」については、同社が、前立腺肥大症に伴う排尿障害治療剤として第三相試験を実施中です。非麻薬性鎮痛剤「NS-315（一般名：トラマドール塩酸塩）」は、非がん性慢性疼痛への効能追加について、第三相試験を実施中です。経口持続性鎮痛剤「NS-24（一般名：トラマドール塩酸塩）」については、がん疼痛および非がん性慢性疼痛を対象とした第三相試験を準備中です。肺動脈性肺高血圧症治療剤「ACT-064992（一般名：マシテンタン）」については、アクテリオン ファーマシューティカルズ ジャパン株式会社と共同で第三相試験を準備中です。肺高血圧症治療剤「NS-304（一般名：セレキシパグ）」については、アクテリオン ファーマシューティカルズ ジャパン株式会社と共同で、慢性血栓性肺高血圧症、肺動脈性肺高血圧症を対象とした第二相試験を実施中です。抗そう痒剤「NST-141」については、大鵬薬品工業株式会社と共同でアトピー性皮膚炎に伴うそう痒を対象とした第二相試験を実施中です。

海外では、合成抗菌剤「プルリフロキサシン」について、中国で導出先のリーズ・ファーマ社（香港）が第三相試験を準備中です。「NS-304」については、導出先のアクテリオン ファーマシューティカルズ社（スイス）が肺動脈性肺高血圧症を対象とした第三相試験を実施中です。サイトレックス社（米国）へ導出したチロシンキナーゼ阻害剤「NS-187（一般名：バフェチニブ）」については、B細胞性慢性リンパ性白血病、進行性前立腺がんを対象とした第二相試験を実施中です。骨髄線維症治療剤「NS-018」については、平成23年6月に米国において第一/二相試験を開始しました。

### (2) 連結財政状態に関する定性的情報

総資産は、1,051億3千2百万円と前連結会計年度末に比べ23億9千4百万円の増加となりました。流動資産は、現金及び預金、有価証券、たな卸資産等が増加、受取手形及び売掛金等が減少し、642億1千9百万円と前連結会計年度末に比べ34億7千万円の増加、固定資産は、投資その他の資産等が減少し、409億1千2百万円と前連結会計年度末に比べ10億7千5百万円の減少となりました。

負債は、支払手形及び買掛金等が増加し、225億4千3百万円と前連結会計年度末に比べ14億9千8百万円の増加となりました。

純資産は、その他の包括利益累計額合計は減少しましたが、利益剰余金が増加し、825億8千8百万円と前連結会計年度末に比べ8億9千5百万円の増加となりました。

(キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期連結累計期間の現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度末に比べ37億1千5百万円増加し、218億5千8百万円となりました。

「営業活動によるキャッシュ・フロー」は、47億6千8百万円の収入となりました。主な内訳は、収入項目では税金等調整前四半期純利益31億3千3百万円、減価償却費14億3千万円、売上債権の減少額13億3千3百万円、仕入債務の増加額11億9千万円、支出項目ではたな卸資産の増加額12億8千6百万円です。

「投資活動によるキャッシュ・フロー」は、2億4千1百万円の支出となりました。主な内訳は、有価証券の償還による収入2億2千万円、有形固定資産の取得による支出4億7千1百万円です。

「財務活動によるキャッシュ・フロー」は、7億8百万円の支出となりました。配当金の支払等によるものです。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間の業績は、概ね当初の計画に沿って推移しており、連結業績予想につきましては、平成23年5月12日の決算公表時より変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	11,424	13,172
受取手形及び売掛金	27,573	26,240
有価証券	7,009	8,789
商品及び製品	6,908	7,714
半製品	1,029	935
仕掛品	362	316
原材料及び貯蔵品	3,248	3,868
繰延税金資産	1,518	1,519
その他	1,675	1,663
貸倒引当金	△0	△0
流動資産合計	60,749	64,219
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	8,224	7,858
土地	8,118	8,118
その他（純額）	2,480	2,519
有形固定資産合計	18,823	18,497
無形固定資産	672	622
投資その他の資産		
投資有価証券	11,002	10,295
繰延税金資産	450	627
長期前払費用	8,866	8,730
その他	2,210	2,176
貸倒引当金	△37	△38
投資その他の資産合計	22,492	21,792
固定資産合計	41,988	40,912
資産合計	102,737	105,132

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,297	6,488
未払金	2,805	3,004
未払法人税等	598	1,085
賞与引当金	2,319	2,315
その他	1,881	1,678
流動負債合計	12,902	14,571
固定負債		
繰延税金負債	0	0
退職給付引当金	7,718	7,534
その他	423	438
固定負債合計	8,142	7,972
負債合計	21,044	22,543
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	5,174	5,174
資本剰余金	4,444	4,445
利益剰余金	71,108	72,446
自己株式	△2,058	△2,067
株主資本合計	78,669	79,997
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,880	2,449
繰延ヘッジ損益	2	△5
為替換算調整勘定	△36	△37
その他の包括利益累計額合計	2,845	2,406
少数株主持分	177	184
純資産合計	81,692	82,588
負債純資産合計	102,737	105,132

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
(四半期連結損益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
売上高	30,398	32,173
売上原価	14,312	15,440
売上総利益	16,086	16,733
返品調整引当金戻入額	25	—
差引売上総利益	16,111	16,733
販売費及び一般管理費		
給料及び手当	3,018	3,089
賞与引当金繰入額	1,524	1,512
販売促進費	546	458
退職給付引当金繰入額	522	532
減価償却費	185	184
研究開発費	4,403	4,359
その他	3,681	3,584
販売費及び一般管理費合計	13,880	13,721
営業利益	2,230	3,011
営業外収益		
受取利息	24	14
受取配当金	227	146
受取賃貸料	185	163
その他	254	79
営業外収益合計	691	403
営業外費用		
支払利息	5	4
寄付金	101	100
為替差損	236	17
固定資産処分損	9	4
賃貸費用	55	57
その他	93	97
営業外費用合計	500	281
経常利益	2,421	3,133
特別損失		
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	133	—
特別損失合計	133	—
税金等調整前四半期純利益	2,288	3,133
法人税、住民税及び事業税	714	1,020
法人税等調整額	113	89
法人税等合計	828	1,109
少数株主損益調整前四半期純利益	1,459	2,023
少数株主利益	9	11
四半期純利益	1,450	2,012

(四半期連結包括利益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	1,459	2,023
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△1,235	△431
繰延ヘッジ損益	△2	△7
為替換算調整勘定	△3	△0
その他の包括利益合計	△1,241	△439
四半期包括利益	217	1,584
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	208	1,573
少数株主に係る四半期包括利益	9	11

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	2,288	3,133
減価償却費	1,517	1,430
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	△291	△184
その他の引当金の増減額 (△は減少)	△19	△3
受取利息及び受取配当金	△252	△160
支払利息	5	4
為替差損益 (△は益)	295	102
有価証券売却損益 (△は益)	△100	—
固定資産処分損益 (△は益)	9	4
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	133	—
売上債権の増減額 (△は増加)	762	1,333
たな卸資産の増減額 (△は増加)	92	△1,286
その他の流動資産の増減額 (△は増加)	133	△124
仕入債務の増減額 (△は減少)	△206	1,190
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△49	△117
その他の流動負債の増減額 (△は減少)	△281	△224
その他	△17	44
小計	4,017	5,141
利息及び配当金の受取額	252	161
利息の支払額	△5	△4
法人税等の支払額	△1,226	△529
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,037	4,768
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	△57	△42
定期預金の払戻による収入	50	30
有価証券の取得による支出	△99	△20
有価証券の償還による収入	399	220
投資有価証券の取得による支出	△2	△2
投資有価証券の売却及び償還による収入	126	100
有形固定資産の取得による支出	△1,012	△471
有形固定資産の売却による収入	—	20
無形固定資産の取得による支出	△147	△110
長期前払費用の取得による支出	△463	—
その他	△4	34
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,210	△241
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
配当金の支払額	△673	△674
自己株式の取得による支出	△14	△9
その他	△29	△24
財務活動によるキャッシュ・フロー	△716	△708
現金及び現金同等物に係る換算差額	△298	△102
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	811	3,715
現金及び現金同等物の期首残高	19,447	18,142
現金及び現金同等物の四半期末残高	20,259	21,858

- (4) 継続企業の前提に関する注記  
該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

I 前第2四半期連結累計期間（自平成22年4月1日 至平成22年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	医薬品	機能食品	合計	調整額	四半期連結損益 計算書計上額
売上高					
外部顧客への売上高	24,870	5,528	30,398	—	30,398
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	24,870	5,528	30,398	—	30,398
セグメント利益	1,986	244	2,230	—	2,230

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間（自平成23年4月1日 至平成23年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	医薬品	機能食品	合計	調整額	四半期連結損益 計算書計上額
売上高					
外部顧客への売上高	26,379	5,794	32,173	—	32,173
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	26,379	5,794	32,173	—	32,173
セグメント利益	2,842	169	3,011	—	3,011

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記  
該当事項はありません。

(7) 重要な後発事象  
該当事項はありません。

### 3. 補足情報

#### (1) 主力製品売上高

(単位:百万円)

製 品 名	薬 効	第2四半期累計			通 期		
		H23年 3月期	H24年 3月期	前年同期 増減率	H22年 3月期	H23年 3月期	H24年 3月期(予)
エビプロスタット	前立腺肥大症治療剤	3,262	3,004	△ 7.9%	6,629	6,342	5,900
ガスロンN	粘膜防御性胃炎・胃潰瘍治療剤	2,304	2,410	4.6%	4,498	4,540	4,900
ハイベン	非ステロイド性鎮痛・抗炎症剤	2,568	2,318	△ 9.7%	5,655	4,846	4,400
ビダーザ	骨髄異形成症候群治療剤	-	1,903	-	-	302	4,200
ルナベル	月経困難症治療剤	1,493	1,803	20.7%	2,085	3,107	3,700
シアリス	勃起不全(ED)治療剤	1,301	1,486	14.2%	1,799	2,675	3,200
セファドール	抗めまい剤	1,400	1,344	△ 4.0%	2,858	2,696	2,600
セレクトール	血管拡張性β1遮断薬	1,504	1,300	△ 13.5%	3,251	2,852	2,600
ブラダロン	頻尿治療剤	1,435	1,279	△ 10.9%	3,094	2,769	2,600
エストラサイト	前立腺癌治療剤	1,358	1,263	△ 7.0%	2,832	2,630	2,500
キロサイド	代謝拮抗性抗悪性腫瘍剤	1,474	1,200	△ 18.6%	2,706	2,651	2,300
アズノールうがい液	アズレン含嗽液	1,101	1,070	△ 2.8%	2,388	2,470	2,400
バイナス	アレルギー性鼻炎治療剤	783	804	2.7%	2,237	2,610	2,500
リボスチン	アレルギー性鼻炎治療剤 アレルギー性結膜炎治療剤	276	225	△ 18.3%	1,221	1,920	1,200
工業所有権等収益		30	55	83.0%	1,996	123	100
プルリフロキサシン原薬		427	326	△ 23.6%	1,296	982	850
医薬品 計		24,870	26,379	6.1%	52,165	52,554	55,400
機能食品 計		5,528	5,794	4.8%	10,767	10,970	11,100
売上高		30,398	32,173	5.8%	62,932	63,525	66,500

## (2) 製品開発状況

### <国内開発状況>

開発段階	開 発 記 号 ( 一 般 名 )	領域分類	適 応	オ リ ジ ン	開 発
申請準備中	<b>NS-11</b> (アカンプロサートカルシウム)	その他	アルコール依存症患者の 断酒補助	導入： メルセロノ社(スイス)	自社
PⅢ	<b>LY450190</b> (タダラフィル)	泌尿器系	前立腺肥大症 に伴う排尿障害	導入： 日本イーライリリー	日本イーライリリー
PⅢ	<b>NS-315</b> (トラマトール塩酸塩)	炎症・ アレルギー系	非がん性慢性疼痛	導入： グリュネンタル社(独)	自社
PⅢ準備中	<b>NS-24</b> (トラマトール塩酸塩)	炎症・ アレルギー系	がん疼痛 非がん性慢性疼痛	導入： パラティン社(カナダ)	自社
PⅢ準備中	<b>ACT-064992</b> (マシテンタン)	循環代謝系	肺動脈性肺高血圧症	導入： アクテリオン社(スイス)	共同： アクテリオン・ジヤパン
PⅡ	<b>NS-304</b> (セレキシパグ)	循環代謝系	慢性血栓塞栓性肺高血圧症 肺動脈性肺高血圧症	自社	共同： アクテリオン・ジヤパン
PⅡ	<b>NST-141</b>	炎症・ アレルギー系	アトピー性皮膚炎に伴う そう痒	自社	共同： 大鵬薬品工業

### <海外開発状況>

開発段階	開 発 記 号 ( 一 般 名 )	領域分類	適 応	オ リ ジ ン	開 発
発売準備中	<b>NM441</b> (プルリフロキサシ)	感染症	合成抗菌剤	自社	導出： 柳韓洋行社(韓)
PⅢ準備中					導出： リーズ・ファーマ社(香港)
PⅢ	<b>NS-304</b> (セレキシパグ)	循環代謝系	肺動脈性肺高血圧症	自社	導出： アクテリオン社(スイス)
PⅡ	<b>NS-187</b> (パフェチニブ)	血液がん	B細胞性慢性リンパ性白血病 進行性前立腺がん 慢性骨髄性白血病(PⅡ準備中) 多形性膠芽腫(PⅠ)	自社	導出： サイトレックス社(米)
PⅠ/Ⅱ	<b>NS-018</b>	血液がん	骨髄線維症	自社	自社

### (3) 製品開発状況・補足資料

申請準備中	
NS-11 (アカン <sup>ポ</sup> オ <sup>ト</sup> カルシウム)	メルクセローノ社（スイス）から導入したアルコール依存症患者の断酒補助剤で、既に欧米で発売済み。国内ではPⅢ試験を終了し、申請に向けて準備中。
フェーズⅢ	
LY450190 (タ <sup>ラ</sup> フィ <sup>ル</sup> )	前立腺肥大症に伴う排尿障害治療剤で、国内は日本イーライリリーがPⅢ試験を実施中。
NS-304（海外） (セ <sup>レ</sup> キ <sup>シ</sup> ハ <sup>グ</sup> )	自社開発したプロドラッグ型経口剤で、活性代謝物が長時間血中に持続し、強力かつ選択的なPGI <sub>2</sub> アゴニスト活性を示す。肺高血圧症治療剤として、欧州医薬品局よりオーファン指定済み。導出先のアクテリオン社（スイス）が日本を除く全世界で肺動脈性肺高血圧症を対象としたPⅢ試験を実施中。
NS-315 (トラ <sup>マ</sup> ド <sup>ル</sup> 塩 <sup>酸</sup> 塩)	グリュネンター社（独）から導入した非麻薬性の経口鎮痛剤で、世界100カ国以上で販売されている。非がん性慢性疼痛について、平成23年1月にPⅢ試験を開始した。
フェーズⅢ準備中	
NS-24 (トラ <sup>マ</sup> ド <sup>ル</sup> 塩 <sup>酸</sup> 塩)	パラディン社（旧ラボファーム社）（カナダ）より導入した経口持続性鎮痛剤でトラマドール塩酸塩の1日1回製剤である。海外では、中等度から中高度の痛みを適応として、すでに世界19カ国で発売されている。国内では、がん疼痛および非がん性慢性疼痛を対象としたPⅢ試験開始に向けて準備中。
ACT-064992 (マ <sup>シ</sup> テン <sup>タ</sup> ン)	アクテリオン社より導入した肺動脈性肺高血圧症治療剤で、海外ではアクテリオン社がPⅢ試験を実施中である。国内は、今後、アクテリオン・ジャパンと共同でPⅢ試験を開始する予定。マシテンタンはアクテリオン社で創製された高活性の組織特異的エンドセリン受容体デュアルアンタゴニスト。
フェーズⅡ	
NS-304（国内） (セ <sup>レ</sup> キ <sup>シ</sup> ハ <sup>グ</sup> )	国内は、アクテリオン・ジャパンとの共同開発。慢性血栓性肺高血圧症を対象としたPⅡ試験を実施中。また、肺動脈性肺高血圧症を対象としたPⅡ試験を平成23年5月に開始した。
NS-187 (ハ <sup>フ</sup> エ <sup>チ</sup> フ)	Bcr-AblチロシンキナーゼとLynチロシンキナーゼを強力に阻害、イマチニブ耐性にも奏効する。導出先のサイトレックス社（米国）が、B細胞性慢性リンパ性白血病、進行性前立腺がんを対象としたPⅡ試験を実施中。また、慢性骨髄性白血病についてはPⅡ試験を準備中。多形性膠芽腫については平成23年2月に脳腫瘍患者を対象にPⅠ試験を開始した。
NST-141	自社開発した抗ヒスタミン作用ではない新規作用機序の外用剤で、既存の薬剤が奏効しない難治性のそう痒に対しても効果が期待できる。アトピー性皮膚炎に伴うそう痒を適応症として開発予定で、大鵬薬品工業と共同で平成23年2月にPⅡ試験を開始した。
フェーズⅠ/Ⅱ	
NS-018	自社開発したJAK2チロシンキナーゼ阻害剤で、強力な阻害作用と活性化型JAK2チロシンキナーゼに対する選択性が高いことから、有効性の向上と副作用の軽減が期待される。国内の患者数が少ないことから、海外での臨床試験を先行し、平成23年6月に米国において骨髄線維症患者を対象としたPⅠ/Ⅱ試験を開始した。